

# 皐月 愛南文芸

篠南川柳会

「思う」

子を思う親の心はいつまでも  
影細り思いでばかり肥大する  
六十の子を思う親八十才  
姑の小言も善意今思う

ちずる  
保美  
千代子  
安子

「音」

足音でわかる職場の怖い人  
パチパチとたき火の音が人集め  
救急車音で気遣う地区の人  
親善ゴルフ日本を叩く音がする  
始めからはずればなし音痴節

さつき  
もつちゃん  
すみ子  
芝田  
国松

菊川俳句会

校門の春日は母の手をにぎり  
初めての登校見守るじじとばば  
両親の写真と話す春の宵  
竹柵にからまる蔓や花豌豆

浅野勇一郎  
長田 高明  
長田千恵美  
小野山シマ子

さわらび短歌会

小花供香湯そそぐ花御堂  
落書きを部屋に残し卒業す  
久々に児をさずかる村の春  
犬の背に舞いて菜花の散歩道

鶴川 裕子  
中川 一喜  
村尾加都子  
安岡留美子

底紅を淡くたえてこぶし咲く春風寒き午後の日溜り  
父が晩年孫子のやうに愛でてるし池の緋鯉も姿を消しぬ  
熱き飯に地卵の黄味もりあがる春の朝の小さな幸せ  
絵手紙にメガネをかけし夫婦離れぬでねと妻は書き添う  
山桜室手の山を色どりて車で走る楽しき出合い  
暇つぶしと軽く言うなよ庭の草引いても引いてもきりなし五月  
点滴台を支へにベッドより降り立ちて娘は手術後の一歩踏み出す  
今年から田圃は他人に頼んだと義姉の介護する八十四の兄  
新築の家の窓に明かり二つ今宵灯りて人住み始む  
昨日とはうって変わった青空に白木蓮のたかだかと咲く  
青麦を活けつつ思う今はもう死語かも知れぬ麦秋の語句

水野美代子  
藤井 擴  
前田 知子  
前田 昭夫  
野崎 幸子  
澤近 正弘  
前田 充  
河上 明美  
松本マス子  
扇野八代生  
岩村千代子

## はじめまして。赤ちゃん。

3月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

## ご冥福をお祈りします。

3月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。